

研究テーマ

社会に開かれた算数教育

～数学的な見方・考え方を働かせながら、学び合う喜びを味わえる授業を目指して～

(1) テーマ設定の背景

今の子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や人工知能（AI）の急速な発展等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、一歩先が見えない社会、見通しがもてない社会になってきている。

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、自ら見通しを立て一歩を踏み出し、そこから改善・修正して次の一歩を踏み出すことをできるようにすることが求められている。こうした求めに対し、算数科（数学科）においては、物事を数理的に捉え、論理的に思考し、問題を解決する力を育む重要な役割を担っている。また、数学的な見方・考え方を働かせ、実社会や実生活と結びつけながら知識や技能を概念的に理解し、活用できる力を重視している。未来を生きる子供たちが、算数科の授業で学んだことを実社会における課題解決や価値創造のために意図的に活用できる力を育てていく必要がある。

そこで研究テーマを「社会に開かれた算数教育」とし、実践を進めていくこととした。

算数科研究部では、「社会に開かれた算数教育」を以下のように整理した。

- ・日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決することができること
- ・算数数学の事象について統合的・発展的に考え、問題を解決することができること

「社会に開かれた算数教育」を実現していくためには、教科横断的な視点で単元を構想する工夫をすることが大切である。単元や本時の中で、「課題認識（どのように考えよう？）→課題解決（試してみよう）→試行錯誤（大変だな）→評価・改善（より深く考えてみよう）」という学習のサイクルを取り入れたり、子供が試行錯誤できる機会を創出するとともに、子供が数学的な見方・考え方を働かせながら問題解決を行うことができるように工夫したりしていきたい。また、有用性、簡潔性、一般性などの様々な視点から算数のよさを感じさせることや、算数は楽しい、面白いと感じさせることも重要である。

さらに、実践を通して、算数で学習したことが社会とつながっていることを実感させ、子供たちが自分の力で人生や社会をよりよくできるという自信をもつことができるようにしていくことも大切である。そのためには、何をどのように振り返らせるかを意識しながら、学習の振り返りの仕方を工夫していくことも有効と考える。

以上のことを意識しながら研究を進めていくことにより、「社会に開かれた算数教育」を実現していきたい。

(2) 目指す算数教育

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育みたい。そして、算数のよさに気づき、算数と日常生活との関連についての理解を深め、算数を主体的に生活

や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成していくことを目指していきたい。

(3) 研究の視点

研究テーマの具現化のため、5つの視点を設け、研究を進めていくこととする。

- ① 子供たちの「困った」「学びたい」「知りたい」という思いを喚起する単元設定や教科横断的なカリキュラムマネジメント
- ② 数学的な見方・考え方を働かせながら、問題解決していく場の設定
- ③ 他者との関わりの中で、よりよい方法を考えたり、統合的・発展的に考えたりする授業構想
- ④ 自分の思考過程や学んだことなどの学習の振り返りの充実
- ⑤ 獲得した知識や考え方を生活の場面や他教科の問題を解決するときに進んで活用しようとする態度の育成

専門委員会活動

(1) 計算力実態調査研究委員会

○ 活動目的・内容

前年度までの計算力の定着度を調査することによって、児童の実態を把握し、今後の授業の構想や個別指導に生かしていく資料とする。

実施時期は4月中、出題範囲は前学年の「数と計算」領域の基礎的・基本的内容とする。

○ 計算力実態調査資料提供校

| 部会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|----|----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|------------------|--------------------|-----------------|
| 学校 | 県居 鴨江 浅間 | 萩丘 広沢 葵が丘 | 芳川北 可美 砂丘 | 積志 有玉 佐藤 | 北浜東 中瀬 赤佐 | 西都台 大平台 舞阪 | 都田南 西気賀 引佐北部 | 光明 上阿多古 熊 |

(2) 部報編集委員会

○ 活動目的・内容

算数部報を通してそれぞれの実践の情報交換をしたり、よりよい実践のための情報を紹介したりするとともに、算数科研究部の活動の理解を図り活気ある教育活動を支援する。

部報はA4表裏1枚程度とし、年4回作成する。

(3) 研究推進委員会

○ 活動目的・内容

算数科教育の研修を深めるための研究推進及び企画・運営に努める。
・第2回研修会の企画運営　・第3回研修会の授業構想、指導案検討

(4) 総務の活動

○ 活動目的・内容

算数科研究部の活動が円滑に進むように、出張依頼文書の作成・発送データ管理、会計等を行う。

・会計管理　・名簿管理　・懇親会案内・出張依頼文書の作成・発送

研修会について

【第1回】

- 日時 令和8年5月27日（水）15：00～16：30
- 会場 浜松市立都田南小学校
- 内容 ・本年度の活動計画
・講話 浜松市教育センター 土屋 淳心 指導主事

【第2回】

- 日時 令和8年7月31日（金）13：00～16：30
- 会場 浜松市教育会館 大会議室
- 内容 ・講演会 広島県三次市立みらさか小学校 瀬尾 駿介 先生
・実践発表
発表者 田代 啓太（追分小） 加茂 夏季（飯田小）

【第3回】

- 日時 令和8年10月28日（水）14：00～16：30
- 会場 静岡大学附属浜松小学校
- 内容 授業者 鷺山 莉奈（中川小） 中村 耕介（籠玉小）